

會報

第一四一號

日本山岳會

第二〇四回小集會

三月六日午後中央氣象台に於て。氣象に關する講演及見學、講師理學博士荒川秀俊氏及出席會員五十一名。

久し振りの小集會であつたが、新舊會員共々熱心に見學した。講演の後質問に入つたが、冬期山岳地帯の氣象について種々有益な話があつた。(世話人、林和夫)

會員總會

四月廿四日午後交通博物館で通常總會を開いた。次第左の通り。

- 一、開會の辭(堀田理事)
- 一、廿二年度事業報告及故黒田・塚本兩氏の追悼(松方理事)
- 一、廿二年度決算報告(藤島理事)
- 一、廿三年度事業計畫(谷口理事)

ウエストン祭り

於上高地

六月 十二日夕 小梨平に於て小講演會及座談會
十三日 記念式

六月十日より小梨平に日本山岳會の天幕を張り、九日から十二日の間に西穂高、明神岳、ジャンダルム及コブ尾根等各級の登山計畫も豫定されてゐますから、會員諸氏の御参加を切に希望致します。

尙信濃支部に於てもこれと相前後して催を豫定してをります希望者は六月五日迄に山岳會内福井主事まで御通知下さい。

- 一、廿三年度決算案(濱野理事)
- 一、定款の変更(濱野理事)
- 一、團體會員取扱の件
- 一、理事増員の件
- 一、東京支部報告(村井理事)
- 一、閉會の辭(堀田理事)

右各事項異議なく承認可決せられ議事を終つてから、最近スキスから歸朝した高木正孝氏の過去十年に於ける歐洲登山界の管見談があり、次いで田口二郎氏の製作に係るスキー映画を觀賞して會を了つた。出席會員一二四名、古くからの會員の顔も多數見え久々の盛會であつた。

昭和二十三年度事業計畫

四月廿四日の會員總會に於て承認された事業計畫は左の通りである。括弧内は主任擔當理事。

- 1 出版
 - ・山岳 A 5版一八八頁、年二回發行。(關根吉郎)
 - ・山 B 5版三二頁、現在通りとし月刊に努力す。會の行事を發
- 2 昭和三十二年度事業計畫

表し地方會員にも便ならしむ。
(垣内政彦)

- ・山日記 A 6版一八八頁、定價約百五十圓、七月上旬發行豫定。
- ・神山勉
- ・會報 従来の形式にて年二回位發行し、他にハガキにて會員の連絡をとる。(望月達夫)

- 2 組織
 - 各地支部を育成強化し各縣體育會に連絡あらしめる又各山岳連盟を山岳會に連絡せしめる。(松方三郎)
- 3 國民體育大會
 - 別記の通り(松方三郎)
- 4 學生
 - 各地學生登山者の育成指導にあたる。(谷口現吉)
- 5 研究
 - 雪崩の研究調査及登山用具の研究(今村正二)
- 6 資料
 - 用具の研究及登山用具の獲得並配給(藤井運平)
- 7 啓蒙指導
 - ・登山部門
 - a 實踐登山(リーダー又は講師は其の都度選定)
 - ウエストン記念登山(六月十三日上高地の豫定)、夏期講習會(七月)、積雪期登山の初歩講習會(十一月)、スキー講習會(十二月)、日本山岳計畫による大規模な登山(年一回)
 - b 海外遠征常設委員會設置
 - 委員は遠征登山に關心又は經驗をもつ者の中より選り常設

的な會とされるべく同志結合體とす。

- (以上堀田彌二)
- ・講習會
 - 重點を一般登山者の指導にをき特に正しい技術の指導に努む。夏期(六月)、冬期(十一月)、(林和夫)
- ・展覽會
 - 年一回東京都にて開催、圖書、登山一覽をも含めた啓蒙的な展覽會(七月、丸善會場の豫定)(山下一夫)
- ・講演會
 - 年一回四位、映画等を併せた講演會を行ふ。(村井米子)
 - ・ハイキング
 - 年六回位、日本山岳會選定のコースを選ぶこと。(山下一夫)

- 8 山小舎及山案内人
 - 山小舎愛護運動、適正宿泊料及案内人組合の適正賃金を定める案内人の養成訓練。(渡邊公平)
- 9 圖書
 - 圖書室が出来れば直ちに飯塚、黒田、英木氏の寄贈圖書を入れ圖書室を整備す。基金一〇萬圓の豫定。(田邊主計)
- 10 視聽
 - 小集會(年一回)、懇談會(年二回の復活。(藤島敏男)
- 11 ルーム兼圖書室再建基金募集
 - 基金五十萬圓の豫定にて募集。(別項記事参照のこと)(藤島敏男)
- 12 留ルーム建設
 - 圖書室を兼ね十五坪、平屋中二階、宿泊設備を設く。豫算約三

十萬圓。(小原勝郎)

- 13 女子部
 - 女子のみの登山、小集會。女子の學生小集會及團體の技術向上を計る。(村井米子)
- 14 對社會的交渉(松方三郎)
- 15 遠離對策
 - 各支部を中心として實施。(谷口現吉)
- 16 常務理事會
 - 毎週末曜日午後四時より。(堀田、谷口、濱野)

右の中には本年の事業計畫と云ふよりも本年を以て開始し、相當長年月を要するものも含まれてゐる役員も非常に懇切つてゐるので會員各位の熱意ある援助協力を期待する。

定款の変更

本會定款の一部を左の通り變更した。

第二章 會員

第七條 本會は通常會員、團體會員、終身會員及び名誉會員をもつて組織する。

一、通常會員は本會の趣旨に賛成し本會の定めた通常會費を納めるものとする

二、團體會員に關しては別にこれを定める

三、終身會員は一號に準じ所定の一時金を納めた者とする

四、名誉會員は役員總會が推薦する

説明(終身會員の制度は殘置してをくが、現狀に鑑み會費はなるべく拂込んで戴きたい意向であつて

終身會員各位の意志によつて決める。新しい終身會員の申込みは當分うけない。又團體會員細則の作成に基き現在の第八條第二項、第四項及第十條第二項の團體の代表者の資格で入會するものに關する規定は削除する。

第三章 役員

第十二條 本會に左の役員を置く

一、會長 一名

一、評議員 三十名以内

一、監事 若干名

一、監事 二名以内
説明(從來の理事十名以内を三十名以内に増加した。本年の理事は在京會員のみとしたが、地方支部の支部長及有志は將來評議員に推薦することとし、國民大會に支部長會議を開催する。理事は體育會に直結した會の運営に當るもので在京者としたのを、諒とせられたい。)

團體會員細則

第一條 團體會員は十名以上の會員を有する團體にして本會の趣旨に賛成し本會の定めた團體會費を納めるものとする

第二條 團體會員の入會には會員二名の紹介をもつて代表者の氏名、所在地及會員名簿を添えて入會を申込み理事會の承認を受ける。

第三條 入會の通知があつた場合は會費に所定の團體入會金を添えて拂込む。

第四條 本會に入會せる團體の構成員は原則として通常會員と同じ

等の取扱ひをうける。但し役員に選舉される資格を持たない。總會に於ける議決權は團體の代表者のみこれを行使することが出来る。

第五條 團體會員の構成員で本會々員の年度會員證(メンバー・カード)及び本會々員章(バッジ)の交付を受けんとする場合、その所屬する團體を通じて本會にその旨申出るものとする。但しカードについては登録手数料として金十圓を添え、バッジについては實費を添えて申込むものとする。

○細則説明
團體の構成員で本會の會員證の交付を受けバッジを佩用したいと希望する場合には會員名簿を提出しそれに一名一年分の手数料として十圓を添えて申込む。

會主催の講習會、講演會、或は山小屋等で會員證の呈示を要する場合があるからカードを所持することとは便利なのである。但し團體會員の構成員は選舉權、被選舉權をもたない。議決權はその會を代表する者のみ持つてゐる。會員證が會員(一單位)であるからである。従つて構成員が全部直接つながりを希望しない場合には、代表者のみが登録されることも起り得る。

會の構成員で直接つながりを希望しない者が一部にあるときは、希望者のみ登録しても差支えない。要は日本全國の登山者を一應直接にか間接にか日本山岳會に結びつけて強力な活動の基礎をつくらう

といふ所にねらひがある譯である。構成員には會報は送らない。會員たる團體宛に送付する。色々な通知等も團體宛にする。構成員は團體を通じて日本山岳會に結びつくことになるのである。

從來の定款により團體の代表者の名で會に入つてゐる團體は、反對の意思表示のない限り自動的に新らしい定款による團體會員として取扱う。従つて更めて團體入會金の拂込みを必要としない。

本年度會費

通常會員 五十圓(一名年額)

團體會員 五十圓(一團體年額)

入會金(通常會員)五十圓(一名)

團體入會金 百圓(一團體)

團體會員登錄手数料十圓(年額一名に付)

此の外に支部のある地域の會員は支部會費の納入を必要とします。

右は會員總會に於て満場異議なく可決されたものでありますから、會の事業達成の爲に是非御拂込み下さるやう御願ひ致します。現在振替貯金は日時を要しますので御手数でも小爲替で御送金下さい。

向東京支部會費は本年度五十圓と決定されました。東京支部に屬する通常會員は計百圓を御拂込下さい。

第三回國民體育大會

登山部會計畫 福岡縣山岳連盟

一、代表者會議、表彰式

一、趣旨 表彰すべき登山記録の奉議並に表彰其の他

2期日 十月廿九日午後一時

3場所 福岡市九州大學醫學部中央講堂
一、講演會
1趣旨 著名山岳人の講演と共に特に表彰を受けた山岳人の講演
2期日 十月廿九日午後三時
3場所 九大醫學部中央講堂

一、映寫會
1趣旨 古典的、文化的、藝術的又技術的な山岳映寫の上映
2期日 大會期間中二日間
3場所 未定(興業組合に交渉中、二三映画館より好意的な申出もあり)

一、展覽會
1趣旨
(イ)登山用具の文化的及科學的進歩を示す。用具に依り登山技術發達史に主力を注ぐものを一會場に。
(ロ)九州山岳に關するものを一會場に。

2期日 大會期間中
3場所 福岡市玉屋デパート、岩田屋デパート

一、登山計畫
1期日 十月廿日—十一月二日
2場所 久住山
3人員 約五〇〇名
4コース

A 豐後引治驛—地蔵原—筋湯
(泊)—久住山—法華院(泊)—大船山—ヨシブ—十三曲—豐後中村驛

B 豐後中村驛—十三曲—星生

温泉(泊)—スガモリ越—久住山—筋湯(泊)—地蔵原—豐後

引治驛

C 湯平驛—千町無田—ヨシブ—法華院(泊)—久住山—長湯

(泊)—久住町—竹田驛

D 豐後竹田驛—長湯(泊)—大船山—法華院(泊)—久住山—まかと越—瀬の本—黒川温泉(泊)—内牧驛

備考 都合により福岡縣内各地區に於て地區的登山を行ふ豫定九州の地元福岡山岳連盟の骨幹により右計畫が立案せられ、山岳會はこれを全面的に支持し確定案として採用した。山岳會の希望としては全國代表者會議を將來は各支部長會議にもつてゆきたい。

役員會

▽一月十七日(體育館)

一、擴大理事會 理事全員他九名本年度の方針につき藤島理事より庶務責任理事を設ける案提議。一般に若い理事を増員し今後は若手に會の運営を委ねることに決定
▽一月廿三日(體育館) 理事會

松方他十五名
前回の擴大理事會の主旨に基き左の人々を理事に推挙し左の事項を決議す。

一、堀田、谷口、濱野を常務理事

一、松方を理事長

一、理事二十名以上(別記)

一、福井(體育會主事)を會の主事とす

一、會のルーム建設に努力す。

一、山日記發刊を實現化する。

▽一月廿一日(體育館) 理事會

松方他十四名

一、廿三年度理事及任務分擔案決定

邊主計、渡邊公平、山下一夫（主事）（福井正吉）

△二月廿二日 松方郎 有志懇談會（松方、横、三田、藤島、成瀬、長谷川傳、中村清、島田、入澤、堀田、小原、谷口、濱野、關根、林、今村、神山、藤井、垣内）

尙會長は武田久吉、監事は沼井鐵太郎に變りはない。

廿二年度收支決算報告

収入の部

前年度繰越金 一六四・〇〇
會費 二八・五三三・三一
入會金 一・六八〇・〇〇
會員章費上 二・五二五・〇〇
寄付金 一・〇〇〇・〇〇
合計 三三・九〇一・三一

支出の部

體育會負擔金 五六〇・〇〇

◆山岳總合展覽會◆

七月七日—十四日

・日本橋・丸善本店階上
・内容——内外登山關係資料（圖書、地圖等）自然科學資料、登山用具、繪畫、寫真等

◆講演と映畫の夕◆

七月十日

・交通博物館講堂（万世橋）
・講演 田口二郎氏「スイスの山々」
・映畫 未定（交渉中）

▽四月十六日（體育館） 理事會
一、會員總會打合せ

本年度の役員

定款改正に伴ひ本年度の理事は増員され、四月廿四日の總會で左記諸氏が承認された。又三十名以内の範圍で爾後の増加は理事會に一任された。（ABC順）

理事長（松方三郎）、常務理事（濱野正男、堀田彌一、谷口現吉）、理事（藤井運平、藤島敏男、林和夫、今村正二、入澤文明、垣内政彦、神山勉、望月達夫、村井米子、小原勝郎、關根吉郎、島田興、田

廿三年度豫算

収入の部

前年度繰越金 八、一七六・五六

入會金 五〇、〇〇〇・〇〇
會費 一二五、〇〇〇・〇〇
合計 一八三、一七六・五六

支出の部

會報費 三〇、〇〇〇・〇〇
發送費 三〇、〇〇〇・〇〇
交通々信費 一〇、〇〇〇・〇〇
消耗品費 一〇、〇〇〇・〇〇
研究調査費 三五、〇〇〇・〇〇
國民體育大會參加補助費 一〇、〇〇〇・〇〇
人件費 五〇、〇〇〇・〇〇
豫備費 八、一七六・五六
合計 一八三、一七六・五六

東京支部收支決算報告

収入の部

會費 四、九五〇・〇〇
本部よりの手数料 七一五・〇〇
講演會純益 一、七一四・四〇
合計 七、三七九・四〇

支出の部

岳連會費 五〇・〇〇
通信費 一、七四〇・〇〇
事務費 七九五・〇〇
集會費 三五〇・〇〇
人件費 二、四〇〇・〇〇
本部立替（人件費）一、五〇〇・〇〇
次期繰越金 五四四・四〇
合計 七、三七九・四〇

ルーム再建について

芝・虎ノ門にあつた本會圖書室兼ルームが、その充實した内容と共に一切焼失して既に三年の歲月が流れた。此の間會は本據なく日本體育會に加盟して後はその内部に事務所を移したものの、獨立の一室を得るの餘裕なく、總ての點

において甚しい不便不自由を忍んで今日に至つた。

最近體育會は敷地無償貸與の好意を示され、加ふるに篤志の會員が建設に特別の便宜を提供され、こゝに待望の圖書室兼ルーム再建が急速に實現する運びとなつた。場所は駿河台、日本體育會後庭約十五坪の山小舎風平家建、圖書室とクラブ・ルームを兼ね、アテックに棚床六個を設け、地方會員の爲に宿泊の便を得られる設備をもつもので建築費約三十萬圓を要する見込である。

建築者からは格別の厚意をもつて近く着手、本年秋頃竣工の曉まで一切の支拂を猶豫するとの申出を受けてゐるが、本會としては建築費の外に備付圖書購入費二十萬圓、計五十萬圓の資金を會員諸兄並に一般山岳愛好者の寄附によつてどうしても調達しなければならぬといふ、背水の陣を布くことになつたのである。

この事業には藤島理事を専任者として全體的に委員三十餘名を以て資金募集に乘出してゐるが、相當困難を豫想せらるゝので、會の歴史、今後の使命を想ひ圖書室再建の緊要性に鑑み、萬難を排して應分の御協力を致されんことを會員各位にお願ひする次第である。

各支部

信濃支部 松本市東町二ノ一一二
○ 下村雅司方
新潟支部 新潟市祝町四八八八
藤島源太郎方（支部長藤島源太

郎）
福島支部 福島市上町三六 伊藤彌十郎方（支部長伊藤彌十郎）
石川支部 金澤市五寶町九一 磯野三郎方（支部長岡部壯次郎）
富山支部 富山市衣服町三〇
關西支部 大阪市北區堂島 大阪貯蓄銀行ビル内（支部長篠田軍治）

東京支部 東京都千代田區神田駿河台四ノ六 岸體育館内（支部長松方三郎）
現在迄に支部の設立をみたものは以上の通りであるが、設立豫定中のものは左の通り。

九州 戸畑市向町五丁目幸山莊内
九州山岳連盟
北海道 札幌市市立二中内 北海道山岳連盟村上善彦
広島 廣島市三川町八廣島山岳會
名古屋 名古屋市中區中野新町三ノ一 名古屋山岳會藤部昌三
其他甲府及山形

地方山岳連盟も終戦後益々活躍中であるが國民體育大會に關連しこの連盟もなるべく各縣單位に各縣體育協會に連絡ある組織を持つて、日本山岳會支部となつて中央の體育會内の山岳會に直結し得ないものだらうか。日本山岳會が舊來通りの行き方ならばやむを得ないが、今年からは本格的に若い人達によつて活動の起さうとしてゐる。全國の山岳人がでんでん行動バラになつて、獨りよがりで行動ばかりしては情けないと思ふこんなことを云ふと戦争中の統制に逆行するといふが、統制して何うするといふ政治的野心も何もない。唯何とか登山者の氣持をうまくとめにする中樞機關を必要と思ふからである。（濱野）

新入會員

番號 氏名

二七一 渡邊 理

二 岡 茂雄

三 河野 文夫

四 桃坂 健亮

五 福田 復

六 稻富 昭

七 金子 正造

八 山口 國俊

九 内山正二郎

二七二〇 鈴木富佐子

一 川又 恒一

二 三浦 通庸

三 寒河江曹昌

四 本多 作男

五 中島 正夫

六 三瓶 隆藏

七 石井 文彌

八 菊池 淳智

九 加藤 貞吉

二七三〇 齊藤 善作

一 藤本 清一

二 鈴木 温

三 篠崎 二郎

四 池田 富松

五 百瀬 孝

六 角田 一也

七 那須 孝

八 奥山 文次

九 佐藤吉太郎

二七四〇 吉松 昭

一 原田 顯明

二 黒須 功

三 結城 和夫

四 石川 浩一

五 細川 貞義

住所

札幌市

松本市

長野縣

福岡市

三原市

熊本市

東京市

船橋市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

番號

二七五〇

一 山口 俊雄

二 藤崎 辰也

三 高木 正夫

四 五十嵐俊太郎

五 渡邊 次郎

六 本多 達也

七 渡邊 德三

八 藤吉 三夫

九 平川 一秋

二七六〇 森 健一郎

一 三浦 一郎

二 中島 武三

三 日野 喜一

四 佐藤 一榮

五 五十嵐武二

六 齋藤 司郎

七 小泉 喜重

八 渡邊 健

九 和田 良八

二七七〇 阿部 正雄

一 加藤 準之助

二 千谷壯之助

三 星野 辰雄

四 宮内清之助

五 吉田 源七

六 林部 義雄

七 米山 秀雄

八 勝部 達良

九 星野 昭司

二七九五 前田七三郎

一 櫻井 規

二 高木 義雄

三 藤岡竹次郎

四 瀧澤 寅雄

五 丹羽 邦義

六 島羽 昭

七 海老辰之助

住所

埼玉縣

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

東京市

番號

二八〇〇

一 渡邊 達也

二 河井 眞治

三 小林卯三郎

四 北村 恭平

五 齋藤 廣衛

六 渡邊 欣次

七 保倉 英行

八 師尾 源藏

九 小池 保夫

二八一〇 久保田ふみ子

一 杉浦 明

二 川野 榮

三 宇野 穰

四 富山高松山岳スキー部

五 代表 清水虎雄

六 深井 基邦

七 吉田 哲龍

八 中野 俊陽

二八二〇 市川茂吉郎

一 遠藤 忠義

二 黒田 信夫

三 若林啓之助

四 藤平 彬文

五 永守 久三

六 碓井 一正

七 稲田 三郎

八 黒田 清彦

九 黒田 年行

二八三〇 島津 實忠

一 神保 信雄

二 星 匡

三 川瀬正太郎

四 森 昭二

五 内田 實

六 角田 信義

七 後藤 敏

八 藤塚 甲二

住所

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

番號

二八四〇

一 加野 宇吉

二 中村 鶴一

三 廣瀬勘十郎

四 箕浦 三郎

五 皆川 完一

六 内川 定七

七 平田 一郎

八 星 伊一

九 山内 貞次

二八五〇 伊倉 剛三

一 猪木 愛孝

二 林 潤一

三 阪本 丁次

四 號後 久治

五 小高ひろ子

六 青木 邦夫

七 木下 榮治

八 神原 弘

九 村井 米子

三〇〇一 村松 巖

一 町田 立雄

二 竹田 路朗

三 鷺 辰雄

四 森 貫一

五 川森 時子

六 日立製作所登山部代表

七 青木 茂雄

八 大神田軍司

九 西山 登

三〇一〇 大沼 泰藏

一 澤田 武志

二 桑田憲四郎

三 太田 誠子

四 河田 楨

五 堀見 美代

六 秋元 一介

七 堀内 和之

八 今井喜美子

住所

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

番號

二八四〇

一 加野 宇吉

二 中村 鶴一

三 廣瀬勘十郎

四 箕浦 三郎

五 皆川 完一

六 内川 定七

七 平田 一郎

八 星 伊一

九 山内 貞次

二八五〇 伊倉 剛三

一 猪木 愛孝

二 林 潤一

三 阪本 丁次

四 號後 久治

五 小高ひろ子

六 青木 邦夫

七 木下 榮治

八 神原 弘

九 村井 米子

三〇〇一 村松 巖

一 町田 立雄

二 竹田 路朗

三 鷺 辰雄

四 森 貫一

五 川森 時子

六 日立製作所登山部代表

七 青木 茂雄

八 大神田軍司

九 西山 登

三〇一〇 大沼 泰藏

一 澤田 武志

二 桑田憲四郎

三 太田 誠子

四 河田 楨

五 堀見 美代

六 秋元 一介

七 堀内 和之

八 今井喜美子

住所

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

新潟縣

住所

新潟縣